



教職員等記章  
(平成15年4月導入)



〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号  
 熊本県教育庁 教育政策課「ぱとんぱす」係  
 TEL.096-333-2674 FAX.096-384-1509  
 MAIL. kyouikuseisaku@pref.kumamoto.lg.jp

熊本県教育委員会

vol. 46

熊本教育プレス《ぱとんぱす》vol.46  
 平成28年12月9日  
 編集・発行／熊本県教育庁教育政策課

- ①《特集》 キャリア教育の充実
- ②《特集》 グローバル人材の育成／地域とともにある学校
- ③《特集》 創造的な復興
- ④《トピックス》 熊本の心県民大会 教育推進フォーラム／H31全国高校総体 愛称等募集  
 勾玉・埴輪づくり／くまもと文学・歴史館神風連140年  
 パレアアジア展／生涯学習フェスティバルinパレア  
 就学支援金制度／相談窓口／読者アンケート

## キャリア教育の充実に取り組んでいます

# 工業関係学科で学ぶ高校生 アメリカ合衆国でインターンシップ体験

### 熊本県世界チャレンジ支援基金活用事業

県教育委員会では、専門高校生が、県内企業の海外進出先でのインターンシップ、企業視察、現地高校生との交流活動等を体験することで、国際的な感覚と広い視野を持ち、将来は本県産業界の発展に寄与するグローバルな人材の育成に取り組み始めました。

## 研修内容

10月23日(日)から5泊7日間の日程で工業関係学科の高校生10人がアメリカ合衆国にて海外派遣研修を行いました。初めに、平田機工株式会社様の御協力のもとミシガン州Hirata Corporation of Americaニューハドソン工場にてインターンシップを体験しました。英語による自己紹介の後、広い工場内を見学し、本県企業が世界で活躍されている様子を肌で感じることができました。また、生徒一人ひとりが日頃の授業の製作物(鑄造の表札やLEDを用いた竹灯籠等)をロンゴ社長に英語で紹介し、お褒めの言葉やアドバイスをいただき、今後の学習への意欲向上につながりました。



現地マネージャーの説明を熱心に聞く派遣生徒

続いて、「建築の町」シカゴでは、帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライトの自宅の見学により、新旧の建築物を学びました。

シアトルでは、世界最大のボーイング社エベレット工場やマイクロソフト本社を見学し、現地社員の方と意見交換を行いました。最終日にはリンドバーグ高校を訪問し、同じく工業を学ぶアメリカの高校生たちと授業を体験、ランチ交流会では活発に意見交換するなど親睦を深めました。

## 派遣生徒の感想

私は、今回の「海外インターンシップ事業」に参加して、とても印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、ボーイング社エベレット工場での見学です。工場の規模が想像以上にとても大きく、完成した各国の飛行機が10機以上並んでいたのは圧巻でした。飛行機の組立作業においても、一つ一つの工程ごとに部品の検査があり、規格外であった場合、当然作り直し、新しい部品を取り寄せる等、完璧なものを作り出していました。工業の技術力のすごさを実感しました。

2つ目は、英語力の大切さです。平田機工株式会社での製作物の発表の際には事前に準備をしていたので、その成果が出せましたが、リンドバーグ高校の交流の時は、お互いに理解しようと努めましたがなかなか難しく、コミュニケーションの手段としての英語力の大切さを改めて感じました。

今回の海外派遣研修に参加して本当によかったです。学んだことを、これからの学校生活、そして将来の進路決定に向けて生かしていきたいと思います。



天草工業高校 機械科 梅田 聖馬君

## 熊本聾学校在初優勝!

# 全国高校生手話パフォーマンス甲子園

9月に鳥取県で開催された「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」で、県立熊本聾学校手話落語部チームが熊本地震での被災体験を表現して見事に初優勝を果たしました。

大きな揺れと暗闇の中で恐怖や不安が押し寄せてくる様子や、被災体験を経てわかった家族や友人らへの感謝の気持ちを全身で表現しました。

4人は「ステージで演じていた時、審査員やお客様が涙しているのを見て、私達の気持ちが伝わったと思いました。」と振り返りました。部長の坪井誠くんは「中村さんが涙ながらの発

表をしているのが分かり、『自分も頑張らないか』と思いました。熊本を代表して、その体験を発表できたのは本当に良かったです。」と語りました。

熊本聾学校チームの「伝えたい」という思いが、熊本にまた一つ明るいニュースを届けてくれました。



緊張しながらも迫真の演技で優勝を飾った熊本聾学校チーム

## 私たちのアイデアを起業者教育で地域活性化!

## ローカルからグローバルへ



3年生の販売活動(10月)

地域を学び、地域の宝を活かしたビジネスプランづくりに取り組んでいます。地域の協力を得ながら、市場調査等による商品開発、販売活動、(仮想)会社設立など私たちのアイデアで地域を元気にしたいと考えています。10月にあった3年生発表では、ミカンを使った環境に優しい商品やペアTシャツなど、オリジナル商品を開発し、販売しました。

みんなで、この学習を楽しんでいます。

◆取組発表会 平成29年2月19日(日)

(天草市立本渡東中学校 ☎0969-23-5995)



ペアTシャツ (天草五橋50周年記念)



ミカンのアロマキャンドル商品

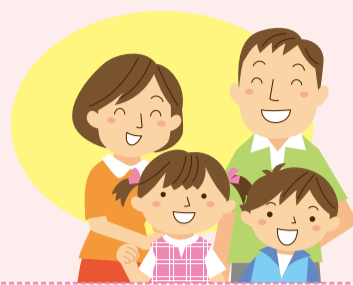


# 次代につながる創造的な復興を進めています

## 復興プロジェクトをとおして感じた人の温かさにつながり

嘉島町立嘉島中学校

熊本地震では、嘉島町も大きな被害を受け、多くの生徒が被災しましたが、休校中にもかかわらず自主的に避難所などでボランティア活動を行う生徒の姿が見られました。そこで、生徒会では学校再開後すぐに、「嘉島中復興プロジェクト」を立ち上げ、嘉島中学校から嘉島町に元気を届けることにしました。



### ①スローガンの看板設置

地震に負けず、前に進んでいきたいという思いから決定したスローガンが「**立ちあがる嘉島町 負けんばい嘉島中**」です。生徒会執行部で看板を作成し、避難所や地域住民から見える3カ所に設置をしました。



スローガンの看板設置

### ②避難所の清掃活動

月曜日から金曜日(水曜日を除く)の放課後に部活動ごとに避難所となっている町民体育館の清掃活動等を実施しました。避難所で求められている活動ができるよう、事前に町民課の職員と活動内容等の打合せを行い、避難所が閉鎖されるまで続けました。



避難所での清掃活動

### ③メッセージボードの作成

2年生では、道徳の時間にボランティア活動について学習をし、その後、学級活動の時間を利用して避難所で生活されている方を元気づけるためのメッセージボードを作成しました。一人一枚メッセージカードを書き、2年生全員の思いを込めたボードとなりました。



メッセージボードの作成

### ④花いっぱい活動

きれいな花で少しでも気持ちが明るくなるようにと、美化委員が避難所となっている町民体育館から見える場所に花を植えたプランターを設置しました。



また、阪神淡路大震災後に始まった「はる

ひまわりを植える美化委員



きれいに咲いたひまわり

かのひまわり絆プロジェクト」に参加し、いただいたひまわりの種で、150本以上のきれいなひまわりを育てました。9月に実施した体育大会では、テントの前にひまわりを設置し、たくさんの方に見ていただきました。

復興プロジェクトの取組は小さなものですが、地域の方からの「ありがとう」の言葉に生徒たちは励まされ、また、全国各地から届くたくさんの応援や支援に、人と人とのつながりや温かさを改めて感じる事ができました。

生徒会執行部では、10月21日に鳥取県で発生した地震を受け、熊本地震における支援への感謝と復興への願いを込め、鳥取県内の中学校へ応援メッセージを作成し届けました。

## 熊本地震にも負けず、頑張っています

### 支えていただいた多くの人々に感謝して

熊本県立第一高等学校合唱団

9月に佐世保市で行われた第71回九州合唱コンクールに出場し、高等学校部門の最優秀団体に贈られる朝日新聞社大賞を受賞し、44回目の全国大会出場を果たしました。

熊本地震後約3週間の休校期間、2、3年生部員が部活動を続けていけるのか、そして新入部員が入らないのではないかと大変心配しておりました。しかし、例年よりも多い新入部員を迎え練習に取り組み、今回このような賞をいただき、団員一同大きな喜びと感動を覚えました。

10月に高松市で行われた全日本合唱コンクール全国大会の結果は銅賞ではありましたが、40人の部員が誰一人辞めることなく全国大会で歌うことができ、感動を新たにするとともに、人々に大きな感動を与えられる歌の力を改めて感じる事ができました。今後も「歌う仲間を大切に」をモットーに、支えていただいた多くの人々に感謝しながら、日々活動していこうと思います。



大賞受賞をよろこぶ第一高校合唱団の皆さん

### 熊本地震の体験から気づいたことを手話で伝えたい

熊本県立阿蘇中央高等学校

社会福祉科2年井麻優香さんは「第33回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」に出場し、第1位に輝きました。



コンテストで発表する井さん

井さんは「生きる」と題して、熊本地震で味わった恐怖や不安、長引く避難生活、そして消防団員として地域のために駆け回った父の姿などを、感情溢れる表情を交えた手話による迫力あるスピーチを行いました。

また10月30日には「くまもと教育の日」県民フォーラムにおいても、発表しました。

### コンテストへの取組を通じた思い

私は4年前の水害で大きな被害を受けた地区に住んでおり、熊本地震でも土砂崩れの恐れがあり、家族とともに避難生活をしました。二度の自然災害を経験して感じた「家族の大切さ」や「生きて生活できることへの感謝の気持ち」を多くの方に伝えたいと思い、手話によるスピーチに挑戦しました。

熊本県ろう者福祉協会の先生にご指導いただく中で、手話は単に言葉を置き換えるのではなく、状況や心情を伝えるために、表情をつけ、身体の向きなどを工夫して伝えることが大切だと学びました。



表彰式の様子

今後もさらに手話を学び、熊本地震の経験を風化させないよう、多くの人に伝え続けていきたいです。

井 麻優香